

世界で最も冠動脈疾患のリスクが低いのは原始的な生活をしている部族

冠動脈疾患の危険因子のうち、社会的慣習による因子が90%以上を占めると考えられる。本研究では、産業化以前の原始的な生活習慣と冠動脈疾患との関連を検証するため、農業と狩猟採集による生活をしているボリビアのチマネ族について調査した。

2014年7月から2015年9月にかけて、40歳以上のチマネ族705人のデータを収集し、動脈硬化に関する多民族研究(MESA)の被験者6,814人のデータと比較検討した。冠状動脈硬化については、動脈プラークのカルシウム沈着を測定し診断した。その結果、チマネ族の85%にはカルシウム沈着がなく、13%が低リスク、3%が中～高リスクであった。チマネ族の75歳以上の高齢者に限ってみると、65%の人にカルシウム沈着がなく、中～高リスクの人はわずか8%であった。これはMESAの被験者の1/5の割合であった。また、コレステロール値、肥満、血圧値、血糖値、喫煙率もチマネ族はほかの民族に比べて低かった。一方で、炎症反応を示す値はチマネ族で高値であった。

したがって、ボリビアで原始的な生活を送っているチマネ族は、世界で最も冠動脈疾患のリスクが低いことが明らかとなり、都市化が動脈硬化の危険因子であることが示唆された。

出典：Lancet. Published online Mar 16, 2017; pii: S0140-6736(17)30752-3.